

イタリア語版ちりめん本について

マリア・エレナ・ティシ
裕村 裕子

1. はじめに

ちりめん本とは、ちりめん加工した和紙を用いた冊子のことを言う。特に、長谷川武次郎(1853-1936)が明治期に出版したちりめん本は残存数も多く、パリ万博で金賞を取ったこともありよく知られている。また、外国の出版社と提携して販売をおこなった日本人出版社のごく初期の例としても注目される^{注1}。長谷川が出版したちりめん本は、小泉八雲の怪談やカレンダー、日本風俗の紹介など内容は多岐にわたるが、そのなかで特に着目したいのが、欧文による日本昔噺シリーズである。昔話の絵本化の歴史や、日本の昔話がどのように海外へ広まっていったのかを知る手掛かりになると思われるからである。

日本昔噺シリーズは初め英語版フランス語版ドイツ語版が発売され、その後スペイン語版やポルトガル語版も出版された。色摺りのちりめん本だけでなく、平紙本や墨摺り本も出版されていたことがわかっている。1885(明治18)年10月21日「絵入自由新聞」にちりめん本の広告が掲載されており、「童蒙に輒く洋語を習熟せしむる爲め」とある。長谷川は日本人の外国語学習用として読まれることも期待していたことが窺える。現在、国内では国立国会図書館ほか、東京女子大学比較文化研究所、放送大学、白百合女子大学、梅花女子大学、聖徳大学等に所蔵されている。海外では、フィレンツェのStibbert博物館^{注2}、フランス国立図書館、スウェーデン国立図書館等^{注3}に所蔵がみられる。

しかし、ちりめん本出版の経緯など不明な点がまだ多い。英語版出版の動機について、福田清人(1983)は「学生時代の英語教師だった外人の紹介で、知った外人に昔話を長谷川が語り、それを訳してもらって出版したようだとのこと。題材の若干は馬琴の『燕石雑誌』ほかをその材料にしたらしい」^{注4}と書いている。「猿蟹合戦」「花咲翁」「勝々山」は『燕石雑誌』に収められた昔話と内容が重なっているが、依然原典不明なちりめん本も多く、田嶋一夫(2015)はちりめん本の研究課題として「翻訳の元となった原典の追求」^{注5}を挙げている。例えばMOMOTAROに登場する鬼の大將AKANDOJIの名前は、これまで昔話資料では発見されて

おらず、その原典の特定はなされていない。また、初期の英語版翻訳者は長谷川との関りがあったことがこれまでの研究で明らかにされているが、スウェーデン語やポルトガル語、あるいはイタリア語といった各国版の翻訳者と長谷川がどの程度の間柄にあったのか明らかではない。さらにテキスト研究も最初に出版され巻数をもっとも多い英語版を基準におこなわれることが従来多かったが、スウェーデン語版3冊は英語版からの直訳でないことがわかっている^{注6}。そこで本研究ではイタリア語版について翻訳の特徴と他国語版との関連について調査した。イタリアでの先行研究調査及び、イタリア語ちりめん本の邦訳をティシが担当し、他の版との比較を柁村が担当した。また翻訳者 Salvatore Fioravanti Chimenz (1876- 没年不詳) についての調査や所蔵調査、翻訳の特徴等については、ティシと柁村がそれぞれの立場で調査をおこなった。

2. イタリア語版 *MOMOTARO* と先行研究

2-1. イタリア語版 *MOMOTARO* について

イタリア語版の欧文日本昔噺シリーズは、現在キメンズによる *MOMOTARO* 1冊 (1898) が確認されている。 *Who's who in Japan* (1916) によれば、キメンズは Import and Export Merchant (輸出入業) 兼 Vice-Consul for Argentine Republic (アルゼンチン副領事) で、1876年にイタリアのナポリで生まれ、Roman Coll で教育を受けたのち日本に渡り、1906年に結婚した。日伊小辞典 *Piccolo dizionario Italiano-Giapponese* (1909) 序文に来日の理由を「客歳八月東京外国語学校以語科講座空虚たりし時相互の利益なればとて監督官庁より其の講座を擔當する爲め招聘されたりき」と書いている。横浜では主に輸出入業に携わっていたようで『最新横濱商工案内大正5年』に名前が挙がっている^{注7}。また鉄道時刻表 *Railway time tables of the Empire of Japan: corrected to June 1901* に、Fioravanti's Egyptian Cigarettes の広告が確認できる^{注8}。



Salvatore Fioravanti Chimenz
Cuor di samurai (1914) より

イタリア語版 *MOMOTARO* は日本では国立国会図書館に所蔵されており、中野、榎本 (2014) 『ちりめん本影印集成』で影印を確認することができる。国外では、フランス国立図書館 Bibliothèque nationale de France の目録に1冊の *MOMOTARO* が確認できる。訳述者その他の書誌事項は下記のとおりである。

訳述 サルバトーレ・フィオラバンティ・キメンズ
挿絵 (小林永擢)^{註9}
出版者 長谷川武次郎 (日吉町十番地)
印刷者 村岡平吉 (横浜市太田町五丁目七十八番地)^{註10}
印刷 明治三十二 (1898) 年七月十三日^{註11}、発行 同月三十一日
頁数 25 ページ 大きさ 17cm

次いで1900 (明治33) 年6月14日の「官報」(第5083号)には、Chimenzが著作権を長谷川武次郎に譲渡した記事が載っている。

第290号ノ一

S.F.Chimenz Favola Giapponese Momotaro 全

冊数枚数	一
著作ノ年月日	四、一一
発行又ハ発行ノ年月日	九、三一
登録出願ノ年月日	九、二七
登録ノ年月日	一二、二〇

著作権

譲渡人及代人氏名住所 S.F.Chimenz 代人長谷川武次郎 東京市京橋区日吉町十番地
譲受人及代人氏名住所 長谷川武次郎 東京市京橋区日吉町十番地

その後キメンズは、*Cuor di samurai* (1914) に自分の著作リストを載せている。このリストに書かれているのは以下の3冊の書籍である。*Favola giapponese "Momotaro."* (*Traduzione italiana*)、*Tra un mese tu morrai, Dramma in tre atti*、*Piccolo Dizionario Italiano-Giapponese, Guida di Conversazioni Moderne*。つまり、1914年の時点で、キメンズは日本昔噺シリーズについて *MOMOTARO* 1冊しか翻訳していないこと、その翻訳は20代前半の仕事であったことがわかる。

2-2. 先行研究

イタリアでのちりめん本研究に、Riccardo Franciによる *Takejiro Hasegawa and the Japanese Fairy Tales of the Stibbert Museum* (2008) と *Au Nippon Studio su Salvatore Chimenz, fra due secoli e due mondi* (2014) がある。管見の限りでは、イタリア語版ちりめん本についての研究はFranci以前にはまとめられてこなかった。*Au Nippon Studio su Salvatore*

*Chimenz, fra due secoli e due mondi*では、キメنزの紹介及びイタリア語版と英語版との全般的な比較、イタリア語版 *MOMOTARO* 全文の紹介が行われており、ちりめん本の国際研究に大きく寄与する内容である。その一方、二冊は Stibbert 博物館のコレクションや日本文化の紹介が中心であり、他国語版ちりめん本も概観しながらの詳細なテキスト研究及び、明治期に横浜の外国人居留地で活動したイタリア人の足跡からたどる日伊交流の歴史については、さらに研究が必要であることが考えられる。

以下、Franci の研究について概略を示す。

1876 年、キメنزはエジプトで活躍した商家の家系に生まれる。1896 年には長崎にいたことがわかっている。1897 年から横浜へ転居。1898 年 *MOMOTARO* のイタリア語訳を出版。*Piccolo dizionario Italiano-Giapponese: guida di conversazioni moderne* (1909), *Cuor di samurai: vero episodio della guerra Russo-Giapponese: appendice, dichiarazione di guerra e trattato di pace* (1914) を日本で出版。その後ながく横浜にとどまり輸出入業に従事した。関東大震災のあった 1923 年以降の記録は残っていない。また Franci は、序文が書き加えられているほかイタリア語版に英語版と異なる点がみられることを指摘している。序文が書き加えられたことについては、ページ数が増えるにもかかわらず長谷川が文章の追加を承諾したことについて疑問を示している。また桃太郎がお爺さんとお婆さんの養子になったという文言が加えられていることから、加筆された背景には、養子であるキメنزが異国日本で成功したという自身の体験が反映されているのではないかと推測している^{注12}。

3. イタリア語版の訳の特徴について

3-1. 先行の *MOMOTARO* とイタリア語版の内容比較

スウェーデン語版ちりめん本「舌切り雀」が A. B. Mitford (1837-1916) の *Tales of Old Japan* (1871) から訳されていたことを踏まえ、イタリア語版に先行するちりめん本（英語版、フランス語版、ドイツ語版）及び、前述の *Tales of Old Japan*、Griffis (1843-1928) の *Japanese Fairy World: Stories from the Wonder-Lore of Japan* (1880) の桃太郎と比較をおこなう。

分析の項目は、序文の有無、爺が山で行う行為及び生業、桃太郎を養子にするという文言の有無、お供の動物が登場する順番、「きび団子」の訳、「鬼」の訳、鬼の大将の有無またはその名前、宝、桃太郎の結婚の有無とした。スウェーデン語版について比較を行った際に用いた項目に、Franci がイタリア語版と英語版との違いとして指摘した「序文」「養子」の有無、またティシが特徴的であると指摘した「きび団子」「鬼」の訳語についての項目を追加した。

	イタリア語	英語	フランス語	ドイツ語	Mitford	Griffis
序文	○	×	×	×	-	-
爺が山で行う行為	木を伐る(きこり)	草刈り	木を伐る(きこり)	草刈り	木を伐る(きこり)	木を伐る(きこり)
養子	養子にする	×	養子にする	×	(foster-parents)	(foster-mother)
お供	犬猿雉(ダンガスで武装)	犬猿雉	犬猿雉(突然戦士の姿になっていた)	犬猿雉	猿雉犬	飼犬、猿雉
きび団子	Danga/Dangas	Millet Dumplings	Dango/Dangos	HirseköBe	Millet Dumplings	Millet dumplings
鬼	Genio	Devils	Genie, Genies	Die koblode	Ogre	Oni, demons
鬼の大將	Akadongi	Akandoji	Akandoji	Akandoji		
宝	山のような貴重な品物	宝物の山	山のような貴重な品物	山のような宝	隠れ蓑笠 満珠 金銀珊瑚 麝香他	隠れ蓑笠 満珠 七宝
結婚	×	×	×	×	×	姫と結婚

以上の比較から、まず序文が書かれていることがイタリア語版の特徴のひとつであると言える。イタリア語版の序文の邦訳は以下のとおりである。

私の小さな読者へ

小さいときに楽しく日々を過ごしていたことをまだよく覚えています。子どものころ、イソップ寓話を読むのが好きで、それをよく理解することができたので、自分は人間の中で一番幸せだと思っていました。

親愛なる子どもたち、これが日本に滞在したとき、あなたたちのことを思い出した理由です。

あなたたちは昔話を読むことが好きだと想像したので、あなたたちがとても喜んでくれるような日本の話を、図々しくも翻訳しようと思いました。

もし翻訳があまりうまくいかなくても、君たちは私を責めたりしないでしょ？ ほめることもしないでください。なぜなら、私が作ったものではなくて、桃太郎の話を日本語から翻訳しただけだからです。

サルヴァトーレ・フィオラバンティ・キメンズ

以上の文章からは、キメンズが桃太郎をイソップ寓話と並べられる物語であると考えていること、子ども読者を想定して翻訳をおこなったこと、桃太郎を日本語から翻訳したことが書かれている。ただ残念なことに、キメンズは日本語の何に基づいて翻訳をおこなったのか書き記

していない。

本文の比較に戻ると、お爺さんとお婆さんが桃太郎を養子にしたことや、日本語の「団子」を欧文に取り込むこと、動物たちが戦士の装束に変わったとする記述はフランス語版とイタリア語版のみにみられる。序文の有無を除き、フランス語版がイタリア語版にきわめて近いことがわかる^{注13}。

イタリア語版とフランス語版のみが同じ日本語資料を用いた可能性も考えられなくもないが、イタリア語とフランス語は同じロマンス語派に属していることや、当時のイタリアでは英語よりフランス語のほうが一般的であったことから、Chimenz がフランス語版を参照しつつ翻訳をおこなった可能性はきわめて高いと考えられる。

3-2. フランス語版とイタリア語版の文章表現の比較

続いて、フランス語版とイタリア語版の文章表現を比較する。文章比較をおこなうのは、3-1 で比較した(1)冒頭部分、(2)桃太郎を養子にする場面、(3)桃太郎と犬の会話、(4)動物たちの衣装が変わっている場面の4箇所である。参考にするために、適宜英語版も併記した。^{注14}

(1) 冒頭部分

フランス語版

Dans une certaine contrée, vivaient autrefois un vieil homme et une vieille femme. Le vieil homme était bûcheron et passait toutes ses journées dans la forêt à couper du bois et à faire des fagots.

イタリア語版

In una certa contrada, vivevano tempo fà, un vecchio ed una vecchia. Il vecchio era boscajuolo e passava tutti i suoi giorni nella foresta a tagliar legna.

参考：英語版

A long long time ago there lived an old man and an old woman. One day the old man went to the mountains to cut grass; and the old woman...

昔話の定型的な文章ではじまっている点はフランス語版、イタリア語版、英語版共に同じである。英語版では「ある日」と桃が流れてきた日に特定されて物語が展開するが、フランス語版とイタリア語版ではお爺さんとお婆さんの日々の様子が描写される。また、3-1でも指摘したように、英語版では爺が「草を刈った」となっているが、フランス語とイタリア語版は共に、爺は「きこり」で「木を伐る」と書かれている。

(2) 桃太郎を養子にする

フランス語版

“C’est un “don du ciel, se disent-ils; nous “n’avons pas d’enfant; adoptons “celui-ci”; -ils le prennent aussitôt dans leurs bras et le comblent de caresses.

イタリア語版

“E veramente un dono del Cielo, si dissero, noi non abbiamo figli, adottiamo questo qui;” lo prendono, e lo coprono di baci.

参考：英語 該当なし

フランス語版とイタリア語版では「養子にしよう」というセリフが書かれているが、英語版にはそれに相当するセリフがない。

(3) 桃太郎と犬の会話

フランス語版

“Momotarô, que portez-vous dans “votre sacoche?”

“Ce sont, répondit-il, des *dangos* “faits avec le meilleur millet du “Japon”.

“Si vous voulez m’en donner un, “je vous accompagnerai,” continua le chien.

“Bien volontiers,” fit Momotarô, et aussitôt, tirant un *dango* de sa sacoche, il le lui donna.

イタリア語版

Momotaro, che cosa portate nella vostra bisaccia? Sono, rispose, dei dangas, fatti col miglior miglio del Giappone.

“Se me ne date uno, vi accompagnerò” continuò il cane. “Ben volentieri,” fece Momotaro, ed all’istante, levato un danga dalla bisaccia glie lo diede.

参考：英語版

“Momotaro! What have you there hanging at your belt!” He replied: “I have some of the very best Japanese millet dumplings.”

会話主体で進んでいくところは、英語版フランス語版イタリア語版で共通している。きび団子を「日本一の」（英 some of the very best Japanese millet damplings, 仏 des dangos, faits avec le meilleur millet du Japon、伊 dei dangas, fatti col miglior miglio del Giappone）と形容する表現にも類似がみられる。一方、桃太郎がきび団子を携えているところを、英語版では at your belt（腰につけている）としているのに対して、フランス語版とイタリア語版では votre sacoche, vostra bisaccia（袋の中）としている。また「きび団子」を dango という日本語の単語を生かした訳をしていることがフランス語版とイタリア語版に共通している。

(4) 動物たちの変身

フランス語版

Puis, tout à coup et comme par enchantement, ces trois animaux se trouvèrent vêtus en guerriers.

イタリア語版

Poi, ad un tratto, e come per incanto, questi tre animali si trovarono vestiti da guerrieri.

参考：英語版 該当文なし

フランス語版とイタリア語版では、犬猿雉がきび団子をもたらしたとする文章のあとに「すると突然、三匹の動物たちは戦士の格好をしていた」と書かれている。英語版には該当の文章はない。挿絵の犬猿雉が衣装をまとっていることから上述の一文が加えられたのであろうか。この動物たちの衣装に関する言及があることもフランス語版とイタリア語版に共通する点である。

以上の比較から、フランス語版とイタリア語版は展開に類似が見られるだけでなく、文章表現についても類似が見られることがわかる。キメズは英語版ではなくフランス語版を参照しながらイタリア語版 *MOMOTARO* の翻訳をおこなった可能性がきわめて高いと考えられる。

4. フランス語版とのかかわりについて

ここでフランス語版ちりめん本 *MOMOTARO* について述べる。フランス語版 *MOMOTARO* はエブラルにより 1885 (明治 16) 年に訳述された。版によってドートルメールの名前が併記されている場合がある^{注15} が、『官報』第 668 号「版權書目広告」の記録には、エブラルによって *MOMOTARO* が訳述されたと明記されている^{注16}。

エブラルはパリ外国宣教会のフェリクス・エブラール神父 (Felix Evrard, 1844-1919) のことである。エブラールは 1867 年来日。新潟で布教するかたわら彼の書生であった原敬にフランス語を教授したことも知られている。築地教会を経て、1880 年から 1903 年まで在日フランス公使館の通訳に従事する。1919 年に東京副司教となる。没後は横濱山手外人墓地に埋葬された。ちりめん本の訳述者の一人でもあるチェンバレン (Basil Hall Chamberlain, 1850-1935) とも交流があった^{注17}。ちりめん本に携わる前に日本で暮らした年月や、長年通訳として重用されたことを考えると、エブラールが英語版に拠らずフランス語版を書き上げたとしても不思議はない。

エブラールは日本通として在日外国人社会で知られていたとともに、しばしばビゴーの宣教師批判の風刺画に描かれたことで当時知られた人物であったようだ。宣教師批判の風刺絵のひ

とつは、マリア会修道士がフランス語だけでなく英語やドイツ語を教えているのは国益に反するということであった。もうひとつは、20年の長きにわたり宣教師であるエブラールがパリ公使館通訳の仕事を独占することに対する批判である。批判の妥当性はともかく、風刺画が伝えるように当時のフランス系ミッションスクールで英語フランス語ドイツ語が教えられていたという事実は、長谷川が当時の教育現場の需要をとらえて英語版フランス語版ドイツ語版の日本昔噺シリーズを企画出版していた証としてみることができよう^{注18}。

狭い外国人居留区のなかで顔を見る機会があったかもしれないが、エブラールとキメンズに交流があったようすはない。つまり、エブラールから紹介されてちりめん本の翻訳をおこなったとは考えにくい。東京外国語学校イタリア語講座の開設に伴うイタリア語読本の国内需要、海外市場拡大への期待といったキメンズと長谷川の思惑が一致してイタリア語版 *MOMOTARO* 出版につながったとみる方が自然であろう。

5. おわりに

イタリア語版ちりめん本 *MOMOTARO* が英語版ではなくフランス語版を参照した翻訳である可能性があることが明らかになった。さらに研究の過程でフランス語版と英語版では異なる点が多いことも示された。つまりちりめん本のテキスト研究は英語版を基準にするのではなく、今後は各国語版同士のテキスト比較をおこない、それぞれの特徴や影響関係を調べる必要があるのである。それはちりめん本の成り立ちを知るためだけでなく、明治期の東京―横浜を背景にヨーロッパ各国がどのような関係にあったのかを理解することができるからである。また文化が伝播する過程で、社会的状況にあわせ多様な伝播が起こりうることを理解するためである。

今回の調査では、残念ながらイタリア語版 *MOMOTARO* が日伊国内外でどのように流通し、どの程度読まれたのかを明らかにすることはできなかつた^{注19}。この点は今後の課題としたい。また明治のキリスト教宣教とちりめん本の関連も、今後さらに調査を進める必要があるだろう。

謝辞

本論執筆にあたりフランス国立図書館司書 Coralie Castel 氏および、パリ日本文化会館図書室の皆様にご助言をいただきました。ここに改めてお礼を申し上げます。

注

- 注 1 羽生紀子 (2001) P.10 「(NSTC のデータでは) 海外出版社と提携した日本人出版社の最初は Japanese Fairy Tale Series の弘文社長谷川武次郎である」
- 注 2 Stibbert 博物館は世界の鎧のコレクションで知られるフィレンツェの博物館。長谷川の出版物が 17 冊所蔵されている。Franci (2014) によれば 13 冊が平紙本で、『ちんちん小袴』『日本の噺家』、冊子体のカレンダー 2 冊の計 4 冊がちりめん本である。www.museostibbert.it
- 注 3 2023 年 10 月現在、ストックホルムにある公共図書館のうちスウェーデン国立図書館 Kungliga Biblioteket に *MOMOTARO* (桃太郎) 1 冊、ストックホルム公文書館 Stockholms stadsarkiv に *Sparfven med den klipptatungan* (舌切り雀) 1 冊、スウェーデン児童図書研究所図書館 Svenska barnboksinstitutet に *MOMOTARO* と *Gubben och trollen* (瘤取) 各 1 冊が所蔵されていること確認した。
- 注 4 福田清人 (1983) 『『日本昔噺』の外国語訳—ちりめん本について—』 PP.42-43
- 注 5 田嶋一夫 (2015) 『中世往生伝と説話の視界』 P.431
- 注 6 裕村 (2021)
- 注 7 1921 (大正 10) 年の『最新横浜市商工案内』(P.327) に、「エス・フヒオラバンティ・キメンズ」が「山下町 93 番丙」(現横浜市山下町 93) で「雑貨及羽二重輸出伊太利各産物輸入」を「伊、仏、埃及、南米、及中米各國」に対しておこなっていたと書かれている。
- 注 8 同時刻表には長谷川武次郎の広告もあり、転居先の住所(本材木町 2 丁目)を案内している。
- 注 9 奥付に画工名は書かれていないが、英語版やフランス語版と同じ絵が用いられているため、永擢による挿絵と考えられる。なお序文が加えられたことにより一部レイアウトは異なる。
- 注 10 1852 年生 -1922 年没。1883 年に米国人宣教師ノックスより受洗。1877 年山下町のフランス系新聞社「レコ・デュ・ジャボン」入社。中国の上海美華書館、横浜製紙分社勤務を経て、1898 年「福音出版」創業。ヘボンの書簡に名前が残されており、両者が親しかったことが窺える。『日本の噺家』(長谷川武次郎発行)や『Who's who in Japan』の印刷も手掛ける。村岡花子の義父。
- 注 11 国会図書館蔵書は手書きで「九月」と修正されている。
- 注 12 フィオラバンティは、養父の苗字である。
- 注 13 ティシは、devil を Genio と訳すことは一般的でない指摘している。Franci が *Takejiro Hasegawa and the Japanese Fairy Tales of the Stibbert Museum*. (2018) で英語

版をイタリア語訳したときは *demoni* という語を用いている。また Chimenz はきび団子を *Danga* と訳しているが、Franci は *le focaccine di miglio* (きびの小さなダンゴ) と訳している。時代による単語選択の変化も考慮されるべきであるが、Chimenz はフランス語版で用いられた単語 *Dango*, *Genie* を生かして *Danga*, *Genio* という訳語を選択したと考えるほうが自然であろう。

注 14 イタリア語版の邦訳については、資料を参照のこと。

注 15 東京女子大学比較文化研究所蔵ちりめん本コレクションには2冊のフランス語版 *MOMOTARO* のデータが挙げられている。ひとつは、平紙本で「佛國エブラル君譯述」とある。もうひとつは縮緬本で「譯者 エブラル」「Traduits par Dautremer」とある。

注 16 『官報』第 668 号、1885. P.262.

注 17 山梨 (2010)

注 18 当時、パリ外国宣教会の要請で設立された女子仏学校 (白百合学園の前身) ではフランス語で英語とドイツ語が教えられていた。余談ではあるが「天主の番兵」(1888年8月1日発行) には、女子仏学校創立一周年記念行事にエブラールがフランス公使代理としてスピーチしたことが記されている。

注 19 Franci が *Takejiro Hasegawa and Japanese Fairy Tales of the Stibbert Museum* (2008) を執筆した時点では「I have never seen an Italian edition nor come across specific references to one. If it ever existed in was probably published to coincide with the International Exhibition in Turin in 1911.」(P.33) と述べている。いっぽう、千田靖子によるエッセイ「イタリアで入手した128年前出版のフランス語版『桃太郎』お伽草紙」(人形玩具学会 Vol.25, 2015) には、イタリアで知人からその祖母の蔵書であったフランス語版ちりめん本 *MOMOTARO* を譲られたことが書かれている。またテイシの調査によれば、イタリア国立図書館のカタログで *MOMOTARO* を含む4冊のフランス語版が確認でき、フランス国立図書館のカタログではイタリア語版 *MOMOTARO* の所蔵が確認できた。イタリア語版の所蔵については、日本とイタリアに限定せず、ヨーロッパを中心に広く調査を行うべきであろう。

参考文献

石川安次郎『Who's who in Japan 1916』第5版. 警醒社, The Who's who in Japan office 出版, 1916, 156p.

石澤小枝子『ちりめん本のすべて』第2版. 三弥井書店, 2005, 326+44p.

Sr. 小林淑子、釘宮明美、佐々木裕子『フランス系修道会と日本におけるカトリック女子高等

- 教育 1』2016, 50p.
- Sr. 小林淑子、釘宮明美、佐々木裕子『フランス系修道会と日本におけるカトリック女子高等教育 2』2016, 36p.
- 高谷道男編訳『ヘボン書簡集』岩波書店, 1959, 386p.
- 田嶋一夫『中世往生伝と説話の視界』笠間書院, 2015, 672p.
- 中野純蔵他『フェリス女学院 110 年小史』フェリス女学院, 1982, 174p.
- 中野幸一、榎本千賀編『ちりめん本影印集成：日本昔噺輯篇』勉誠出版, 2014, (全 4 冊).
- 野村誠『キリスト教と日本文化』改訂版, 「キリスト教と文化」研究会, 1996, 101p.
- 林洋子、クリストフ・マルケ編『テキストとイメージを編む』勉誠出版, 2015, 335p.
- 福田清人『児童文学・研究と創作』明治書院, 1983, 332p.
- 百周年記念誌編集委員会『白百合学園百周年記念誌 1881～1981』白百合学園, 1982, 307p.
- 松野陽一、谷川恵一(山下則子責任編集)『イタリアの日本古典籍及び関連資料目録』国文学研究資料館, 2007, 129p.
- 横濱市役所商工課『最新横濱商工案内 大正 10 年』1921, 523p.
- 横濱市役所商工課『横濱商工案内 大正 13 年』1924, 6+253+15+28p.
- 『日本紳士録』第 4 版. 交詢社, 1897, 88p.
- 尾崎るみ「弘文社のちりめん本『欧文日本昔噺』シリーズの形成と『西洋昔噺』シリーズの開始」白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集 (24). 白百合女子大学児童文化研究センター, 2021, PP.1-34.
- 千田靖子「イタリアで入手した 128 年前出版のフランス語版『桃太郎』お伽草紙」人形玩具研究 (25). 人形玩具学会. 2015, PP.152-154.
- 羽生紀子「明治期日本出版と出版離陸、その後」鳴尾説林 (9). 狂友会, 2001, PP.1-12.
- 藤野雅子「西訳縮緬本『Japanese Fairy Tale Series』」イスパニカ (43). 1999, PP.172-182.
- 杉村裕子「ちりめん本『日本昔噺』シリーズと『燕石雑誌』」『昔話の研究と継承』小澤昔ばなし研究所. 2021, 302p.
- 杉村裕子「ちりめん本英語版とスウェーデン語版の比較」児童学研究 (23). 聖徳大学児童学研究所, 2021, PP.1-10.
- 峯岸英雄「『福音印刷』創業者 村岡平吉の軌跡」郷土神奈川 (53). 神奈川県立文化資料館, 2015, PP.1-16.
- 森征一「司法省お雇い外国人 A. パテルノストロの観た明治の日本『日本についての覚書—第 1 回—』紹介」法学研究 (64-1). 慶應義塾大学法学研究会, 1991, PP.11-32.
- 山梨淳「ジョルジュ・ビゴーと明治中期カトリック教会 —在日フランス人における反教権主義について」日本研究 (42). 国際日本文化研究センター, 2010, PP.37-92.

- 湯川史郎「放送大学附属図書館所蔵『ちりめん本コレクション』調査ノート—メディア史の視点から—」放送大学研究年報 (37). 放送大学, 2019, PP.119-132.
- 国立国会図書館『近代キリスト教新聞集成 マイクロフィルム版 第3期. 第89巻 (天主の番兵. 121-144号. 明治20年7月1日 - 明治22年6月1日)』
- 「官報」第668号, 1885.
- 「官報」第5083号, 1900.
- カトリック新潟教会. カトリック新潟教会の歴史【資料①】新潟カトリック教会百年の歩み. cathedral-niigata.jp. 2023 (最終アクセス 2023.7)
- Chimenz, Salvatore. *Cuor di samurai vero episodio della guerra russo-giapponese. Appendice: Dichiarazione di guerra e trattato di pace*. Chimenz, Salvatore. 1914, 233p.
- Chimenz, Salvatore. *Piccolo dizionario Italiano-Giapponese: guida di conversazioni moderne*. 1909, 214p.
- Franci, Riccardo. *Takejiro Hasegawa and Japanese Fairy Tales of the Stibbert Museum*. Sillabe, 2008, 203p.
- Franci, Riccardo. *Au Nippon Studio su Salvatore Chimenz, fra due secoli e due mondi*. Edizioni del Faro. 2014, 101p.
- Freeman-Mitford, A.B. *Tales of Old Japan*. 1871. (ProjectGutenberg) <https://www.gutenberg.org/ebooks/13015> (最終アクセス 2023.7)
- Griffis, Willwiam Elliot. *Japanese fairy world, stories from the wonder-lore of Japan*. 1880. (ProjectGutenberg) <https://www.gutenberg.org/ebooks/29337> (最終アクセス 2023年7月)
- 国文学研究資料館. 在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ. nijl.ac.jp, 2022. (最終アクセス 2023.7)
- 東京女子大学比較文化研究所. 東京女子大学比較文化研究所所蔵ちりめん本コレクション. <https://www.lab.twcu.ac.jp/~icsc/collection/chirimen/ichiran.html>. (最終アクセス 2023.7)

資料：邦訳イタリア語版 MOMOTARO

表紙 日本の昔話 桃太郎

二丁オ

私の小さな読者へ

小さいときに楽しく日々を過ごしていたことをまだよく覚えています。子どものころ、イソップ寓話を読むのが好きで、それをよく理解することができたので、自分は人間の中で一番幸せだと思っていました。

親愛なる子どもたち、これが日本に滞在したとき、あなたたちのことを思い出した理由です。

二丁ウ

あなたたちは昔話を読むことが好きだと想像したので、あなたたちがとても喜んでくれるような日本の話を、図々しくも翻訳しようと思いました。

もし翻訳があまりうまくいなくても、君たちは私を責めたりしないでしょ？ほめることもしないでください。なぜなら、私が作ったものではなくて、桃太郎の話を日本語から翻訳しただけだからです。

サルヴァトーレ・フィオラバンティ・キメンズ

三丁オ

桃太郎

むかしむかしあるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんはきこりで、毎日、森で木を切って過ごしていました。同時にお婆さんは洗濯していました。

三丁ウ

ある日、おばあさんが川の近くで忙しく洗濯していると、何かが流れに乗って目の前を通り過ぎ、彼女の注意をひきつけました。

四丁オ

非常に大きくておいしそうな桃で、それを逃してしまうのは残念に思われました。

五丁オ

おばあさんは桃を何としても手に入れたかったのです。そしてたまたま見つけた竹杖で、成功することができました。その持ち主になれたことを子どものように喜びました。

年取ったきこりへのおみやげにしようと、いつもよりはやく帰るために自分の仕事を急いで終えました。知っているおじいさんと喜びと幸を分かち合いたいと急ぎました。おじいさんはそのすばらしい果実を見て大変感嘆し、おばあさんは期待を裏切られませんでした。

五丁ウ

時を忘れて見事な果実に見とれてから、それを二つに分け、半分ずつ食べることにしました。しかし、何ということでしょう！まだ完全に開いていなかった桃から、かわいらしい男の赤んぼうが出てきました。思いもかけない出現を見たおじいさんとおばあさんの驚きは想像できませんね。

彼らはしばらくの間、黙って彼を見つめ、そして自分の気持ちが少し立ち直ってから「本当に天の贈り物ですよ。子どもがいない私たちはこの子を養子にしましょう」と言いました。

六丁オ

彼を抱き上げて、キスの雨を降らせました。桃から生まれたという意味の桃太郎という名をつけました。桃の実「ペスカ」は日本語で桃と言うからです。

養父母が手塩にかけて育てた事と、持ち前の体力、そしてあふれるような知性のおかげで、桃太郎はすくすくと急速に成長しました。

大きくなるにつれてより強く、より積極的になりました。

六丁ウ

こうして、彼は二人の老人の喜びと慰めになりました。

七丁オ

彼らが住んでいた場所から少し離れたところに、莫大な富の所有者魔神が住む、オニガシマという島がありました。

七丁ウ

青年になった桃太郎はヘラクレスのように強い力を持っており、その力を頼りにこの島へ行き、そこに積まれている宝物を手に入れることを決意しました。

桃太郎は自分の計画を養父母に伝えました。彼らは桃太郎に同意を与え、息子のアイデアを承認しただけではなく、すぐに旅の準備を始めました。

八丁オ

必要なものをすべて集めるためには数日で十分でした。そしてすべての準備ができたとき、桃太郎は両親に別れを告げて旅に出ました。

八丁ウ

出発の数分前に、おばあさんは自分で作ったダンガスという、小さなパンのようなものをいっぱい詰めた巾着袋を桃太郎に手渡しました。

途中で桃太郎は犬に会いました。「桃太郎、あなたの巾着袋の中に何を持っていますか。」とその犬が聞きました。「日本一のキジで作ったダンガスだ」と答えました。「一つくださったら、付いて行きます。」と犬が言いました。桃太郎は「よろこんで」と答えて、すぐに巾着袋から一つのダンガを取り出して犬にあげました。

九丁オ

少し進むと、一匹のサルと一羽のキジが次々に現れました。犬と同じ質問と提案をして、犬のようにそれぞれダンガをもらいました。

そして、いきなり、まるで魔法のように、それらの動物たちは戦士の装束になりました。

桃太郎は自分の部隊で乗り出しました。無事に旅を終え、目的地にやっと着きました。船は魔神の島に上陸しました。

九丁ウ

その時、城の入り口の大門は閉まっていました。大門を壊して、飛び込むのはあつという間でした。魔神の家来達が襲撃者にとびついて、一所懸命に止めたにもかかわらず、桃太郎の兵士より非常に多勢であったにもかかわらず、撃退され、中央の建物に撤退しなければなりません

でした。

そこに彼らの大将アカドンジは、一人の男の人を圧迫するのに一撃で十分の重い鉄の武具を着て立っていました。

一一丁ォ

桃太郎は持ち前の敏捷さのおかげで、多くの打撃から巧みに身を守り、ヘラクレスのような剛腕で敵の体を締め付けることができました。

一一丁ゥ

その後、戦いはあまり続きませんでした。アカドンジはすぐに地面に投げ飛ばされ、あまりにもきつく縛られたので動くことができませんでした。

桃太郎はその戦いで自分が非常に優秀で勇敢であることを示したので、魔神の大将の親愛と尊敬を集めました。大将は自分の宝物を桃太郎に譲ることに決めました。

魔神の合図で、彼の家来達は山のような貴重な品物を取りに走って、それを若い勝者の前に置きました。

一二丁ゥ

桃太郎は宝物を選び、自分の船に乗せられるものをすべて積み込んだ後、自分の戦友と一緒に島を離れ、両親の元へ帰りました。

桃太郎は、自分の計画を実現した満足感を、気高くて誇り高い態度で示しました。しかし、自分の仲間たちへの恩義を忘れたわけではなく、自分の成功が速くて楽だったのは彼らと一緒にだったおかげだと繰り返し好んで述べました。

一三丁ゥ

おじいさんとおばあさんは、宝物をいっぱい持って無事に帰った自分の息子を見たとき、大喜びでした。

何日かの間は、楽しい宴会ばかりでした。若い英雄は自分の宝物を見せ、成功した自分の遠征のいろいろな冒険を語るため、その宴会に両親と友達を誘いました。

一四丁ォ

自分の富を非常にうまく使って、それがさらに増えるのを見て満足しました。自分のすべての友達によって尊敬され、愛されていました。桃太郎が亡くなったとき、彼らは何か月も何か月も彼の死を悼みました。

若い英雄を讃えましょう！ 桃太郎、万歳！